

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第1回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項（公開）

- ① 春日山城跡に係る市の取組について
- ② 各分科会における審議の状況について

3 開催日時

令和4年4月19日（火）午後6時30分から午後8時5分まで

4 開催場所

市民プラザ 第2会議室

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委員：市川 優、齊藤洋一、白濱昭博、田中裕子（副会長）、谷 健一、藤田晴子、本多俊雄、丸山佳子、山田 孝、吉田 実（副会長）吉田義昭、渡邊康子、渡部忠行（欠席6人）
- ・ 市役所：文化行政課 新保課長、草間主任学芸員
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 太田会長が不在のため、吉田副会長にあいさつをお願いする。

【吉田 実副会長】

- ・挨拶

【藤井係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定による議長について、会長不在のため、副会長が議長を代理することを報告

【吉田 実副会長】

- ・会議録の確認：藤田委員に依頼

次第 3 議題「(1) 自主的審議事項」の「①春日山城跡に係る市の取組について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・説明

【吉田 実副会長】

それでは文化行政課より説明を求める。

【文化行政課 新保課長】

- ・資料 1 に基づき説明

次に、3 月の地域協議会で質問のあった、文化財保護法の改正による規制緩和に関して回答する。

ここ数年、法改正が立て続けに行われており、直近では令和 3 年度に改正されている。今回お話があったのは、おそらく平成 30 年度の改正のことだと思う。

規制緩和と言われてはいるが、手続きの一部を簡略化したのであって、規制が緩くなったのではない。規制が緩くなったというのは誤解である。

【吉田 実副会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

【渡部委員】

文化行政課は、教育委員会とどういう関係なのか。

【文化行政課 新保課長】

教育委員会の中には、学校教育課など様々な課がある。その一つとして文化行政課がある。本日は、文化財を担当している課として、春日山城跡について説明した。

【田中副会長】

今後も、御屋敷跡の近辺の伐採をしていきたいという願望は分かった。

ただ、私たちにしてみたら、例えば 5 カ年計画など、ある程度の見通しを聞かせて

いただき、その中で私たちがができること、例えば下草の処理を一生懸命やれば、いずれこのようにレイアウトされたものが出来上がり、それによって、文化財の保護地域を広げたいとか。今は、見通しが何もなく、時間の区切りがないような気がした。それははっきりと言えないのか。

【文化行政課 新保課長】

ご指摘の通りである。

活動の方向性は示せるが、それをいつから、どれぐらいの事業で進めていくのか、そこまでの具体詳細までは決まっていないため、お答えできないということが現状である。

ただ、中川市長になって、通年観光プロジェクトという事業も進んでいる。

いずれどこかの段階で、そういったものと合わせて、事業計画、具体的見通しも示せるのではないかと考えている。

【田中副会長】

もう一つお願いがある。

文化庁で、いろんな文化財を活用する事業があると思う。

何か始めなければいけないとしたら、やはり、予算の裏付けとか、思い切ってチャレンジする気持ちになるものがないと、私たちも行動しようと思ったときに、背中を押してくれるものがない。

やはり春日山城跡の観光化が進まないのは、何かこう、前に行けない理由があると思う。例えば今みたいに、文化行政課さんが、理想はこうだと旗を上げていただければ、みんなで進めると思う。

春日山界隈だけでも、パンフレットみたいなものを配って、何というか、みんなの中に少しずつ気持ちを芽生えさせる。

もう少し私たちも一緒になって進んでいける体制になったらよいと思った。

今ここに来て、やはり何とかしないといけないという気持ちが芽生えているときに、前に進める力を示してもらえたらありがたいと思った。

【文化行政課 新保課長】

当課としてもここ数年は、通常の維持管理、保護を重視してきたということが正直ある。

今後は、さらに一歩踏み出すというか、積極的に春日山城跡を磨き上げる段階に入

ってくると思っている。

そのため、これから事業を進めるにあたっては、地元の方からお声をいただきながら進めていきたいと考えているので、ぜひまたご意見を頂戴したいと思っている。

【吉田 義昭委員】

先ほど大正時代の写真を見せていただいたが、元々戦国時代もあのような状況だったのか。

【文化行政課 新保課長】

そうである。

基本的に、お城に木を生やすということはなかったと思う。ただ、当時の写真等があるわけではないので、どこまで確実性が高いかと言われると難しい。

【吉田 義昭委員】

戦国時代からこの大正の時代までは、写真のように植林はしていなかったということか。

【文化行政課 新保課長】

植林はしていないし、逆に、維持管理に地域の人に関わってきたということが、あの写真に表れていると私は考えている。

【吉田 義昭委員】

理解した。

私たちは春日山を非常に誇りに思っているし、もっと全国に知られる観光地になって、お客さんに来てもらいたいと思ってきた。ただ、前に進むには壁があるという認識が強い。

先ほどの説明で、行政ではなく、市民の活動がポイントになるという話があったが、それにはどうしたらよいのか、方向を示してもらいたい。

小中学生は草刈りなどを通して、学校でも学んでいるが、春日地区 19 町内全員が、一つになって考えるというのはなかなか難しい。その辺の道しるべを示してほしい。実際どういうふうによればよいのか、それが分かれば協力も得やすい。

【文化行政課 新保課長】

ここから先は、私の個人的な印象を感想も含めて話す。

日本全国の山城を回って見ていただいても、春日山城ほど綺麗で、地域の方に加わっていただいているお城はない。

当課としては、地域の方たちに加わっていただき、地域と一緒に、今、実際活動されていることを若い世代へ伝えていく。その活動を続けていくということが、究極の目標だと思っている。

実は、米沢市の小中学校の体育館には、上杉謙信公と上杉鷹山公の肖像画が掲げられている。もうその頃から、リスペクトされているわけである。

では、上越市民にとって、上杉謙信公はどこまでリスペクトされているか。

やはりそこも振り返って、私も含め、自ら考え、動いていかなければいけないのかと思う。形に見えないものではあるが、思い、考える中で、そういったところは、外から来た人たちには、感じられるし、伝わるのではないのかと思っている。

【渡部委員】

もっと大掛かりな話で、ここに上越市観光交流ビジョンというものがある。その中に上越市観光振興計画策定検討委員会というものがあって、その報告等も載っている。

要は、こういう専門家の集団が集まって議論している中で、我々が自主的審議で何かしようとする、とんでもなく荷が重いのと思っている。自分たちは人数も少ない。

個人的には春日山観光というテーマより、春日山城跡の保存整備というテーマの方がよかったと思っている。

今ほど述べた検討委員会というのは、最終的に、いつまでを目標に、何をするかあまり見えない。私たちにとっては、もう少しスピードアップしたらどうかと思っている。

具体的には発掘調査について、先ほども「健康な人間にメスを入れるようなもの」と説明があったが、それではいつまでも進まないのではないかと思う。

我々のテーマは観光振興策なので、史跡の発掘調査をすると傷が付くというのも、専門家はそういう感覚だとは思いますが、我々にはあまり理解できない。

実はお金がないからできないだけではないか。その辺はどうなのか。やり方はあるのではないか。

【文化行政課 新保課長】

もし、お金が際限なくあれば、例えば、総構の部分も発掘調査を行いながら、堀と土塁を復元するということもできるかもしれない。

ただ、現実的には、お金を度外視して進めることはできない。

そこはやはり、春日山城跡をまずどうするか、長いスパンで考えたときには、段階

的に具体的にどうしていこうか、それを検討しながら、さらには地域の方のご意見をいただきながら、それを具体化するしか方法はないのかと思っている。

【渡部委員】

発掘調査は何でやらないのか。

【文化行政課 新保課長】

先ほどもお話したとおり、発掘調査をするにはマンパワーが必要になってくる。

春日山は国の史跡だが、過去に調査した際は、市で行った。

国の史跡であれば、県が事業主体になっているところもある。そのため、市単独ではなく、県と協力しながら進めるなど、そういった体制を作ることが一番重要なのではないかと考えている。

【吉田 実副会長】

時間も押してきているが、文化行政課としては立場上、保存整備の方が主になっていると思う。

でも今日のお話で、御屋敷のほうの杉林が鬱蒼としたところを切れば、また見どころがあるとアドバイスをいただいたので、またそれを生かしながら、私たちも検討を進めていきたい。

また、中川市長になって流れが変わりつつあるので、そういうところは文化行政課に知恵を出していただいて、知見を生かしていただいて、この春日山の観光振興につなげていただきたい。

最後に一人だけ、質問を受け付ける。

【谷委員】

このパンフレットの中に、「今後の保存管理及び活用について」と書いてあるが、現状は保存管理だけで、なかなか観光につなげるような動きがないような気がする。どのように活用を考えているのか、聞かせていただきたい。

【文化行政課 新保課長】

当課としては、やはり観光というよりは、文化財の保護を図りながら、どのように活用できるかという話になる。

そのため、ここで言う活用とは、例えば当課の草間主任学芸員が年に何回か実施している、皆さんで春日山を巡りながら春日山城を知っていただく機会、そういったソフト事業を実施していきたいと考えている。

【谷委員】

いろいろな部署があると思うが、やはり同じ考え方で、横の連絡を取っていかないといけないと思う。自分たちの部署だけの答えではなく、持ち帰って、周りの部署の考えも集約しながら進めていただきたい。

【文化行政課 新保課長】

先ほどもお話したとおり、通年観光プロジェクトの一つ大きな目玉として、観光部局と文化財部局が一緒になって進めていくということが示されている。

これまでも、観光と文化行政で話をしながら進めてきているので、今後も連携を強固にしながら、事業を進めていきたい。

【吉田 実副会長】

最後に山田委員の質問を受け付ける。

【山田委員】

春日山城跡保存整備促進協議会との関わりはどうか。

【文化行政課 新保課長】

関わりというと、いわゆる車でいう両輪と認識している。

地域の方たちの一番大きな組織である協議会と、文化行政課とで一緒になって、春日山について考えながら、活動させていただいているという認識である。

【吉田 実副会長】

今日は、この春日山はきちんと保存されて、守られているということがよく分かったし、見どころも教えていただいた。

私たちが子どもの頃から、謙信公祭に参加したり、第一義の心というものも心得ているつもりなので、やはり地元が謙信公のことをよく理解して、尚且つ外の人にも誇れる、そういう形にしていきたいと思う。また、協力し合いながら進めていきたいと思う。

補足だが、観光については、次回観光交流推進課から説明していただく予定である。

以上で次第3 議題「(1) 自主的審議事項」の「①春日山城跡に係る市の取組について」を終了する。

次に次第3 議題「(1) 自主的審議事項」の「②各分科会における審議の状況について」に入る。

各分科会より前回の結果報告を求める。最初に観光分科会について説明する。

・資料2に基づき説明

次に安全・安心分科会より説明を求める。

【本多委員】

・資料2に基づき説明

【吉田 実副会長】

次に福祉分科会より説明を求める。

【吉田 義昭委員】

・資料2に基づき説明

【吉田 実副会長】

各分科会の説明に質疑を求める。

自分から質問する。

例えば、福祉分科会でいろいろな調査をされているが、町内で共通した問題や要望は出ているか。

【吉田 義昭委員】

要望というより、実態調査を行っている。要するに人が集まらない、継続できないという声は聞いている。

【渡部委員】

失礼な言い方になって申し訳ないが、この自主的審議のゴールは何かと考えたときに、やはり市長に意見を申し上げるような、今、副会長も言ったように、やはり調査する中で、これを改善してほしいとか、そういうことをある程度描いていったほうがよいと思う。

少なくとも今年度末ぐらいには、それぞれの部会から1件は、市長に意見書のような形で出せるようなスケジュールにしないといけない。

もっと飛躍したアイデアというか、例えば、春日地区にミュージアムを作ったらどうかとか、例えば、春日山荘の問題とか。

そういうものも含めて、できないかもしれないけど、夢みtainなことでもよいと思う。そういうことに向けて、やって欲しいと思う。

【吉田 義昭委員】

我々も今そのように考えている。

具体的には春日山荘の話があったが、あそこも所長さんに聞いて、どういう使い方

をされているのか、ここの施設はどこに欠点があるのかとか、いろんな意見をお聞きしている。それから市民に対して、施設の機能として、例えばバリアフリーにしてほしいとか、そういう話もお聞きした上で、この春日地区にどうあるべきなのか。そういうことも含めて、最後はそっちのほうに持っていきたいと思っている。

身障者体育館も改修工事されたが、それらも含めて、いかにこの地区の施設を有効に使って、コミュニケーションを取れる方法はないだろうか、ということも意見書のネタになると思いながら、進めている。

【吉田 実副会長】

福祉分科会は、町内の活性化という漠然とした、掴みどころのない活動になってしまふかもしれないので、できるだけ絞って、本当に必要なことを重点的に進めていただきたいと思う。

例えば、春日山荘の話は、福祉分科会だけの問題ではなく、地域協議会全体として捉えていかないといけない。とりあえず来年まで市民講座は継続するという話は私も聞いている。だからそのあとどうするかというところに絞って提案してもよいと思う。

これは安全・安心安全分科会も同じかもしれない。過去の地震とか災害とか、そういう基本的なところの勉強もお願いできればと思う。例えば、いずれくる大地震に対してどうするとか、雪の積もった状態で地震が来たらどうなるのかとか。このように掘り下げて進めていただきたいと思った。

他に質問はないか。

(発言なし)

以上で次第3 議題「(1) 自主的審議事項」の「②各分科会における審議の状況について」を終了する。

次に次第4「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・ 次回の地域協議会：5月17日（火）午後6時30分から 市民プラザ会議室（予定）
- ・ 内容：（自主的審議事項）各分科会の審議状況

【吉田 実副会長】

その他、何かあるか。

(発言なし)

・会議の閉会を宣言

※閉会后、分科会を開催（流れ解散）

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。